**＝＝＝**

属性（選択肢または数値入力）

性別：女性

年齢層：40代

本人の感染の有無：なし

親しい人の感染の有無：あり

同居者：夫、娘（高校生）、息子（中学生）

居住都道府県： 東京都

住居の形態（戸建て、集合住宅（庭またはバルコニー・ベランダあり））： 集合住宅

職業：派遣社員

収入の変化（自分、世帯）：変わらない； 下がった

支出の変化：変わらない

2020年1月の週あたり出勤日数、労働時間（職場と在宅それぞれ）：

5日 職場35時間；自宅0時間

2020年5月の週あたり出勤日数、労働時間（職場と在宅それぞれ）：

0日 職場0時間；自宅35時間

生活満足度の変化（大きく下がったから大きくあがった）まで：下がった

自由記述：

自分のリモートワークが認められるようになったのはありがたい。子ども達の教育が心配。

＝＝＝

【自分自身について】

1. 1月の働き方
2. 緊急事態宣言中の働き方

インタビュアー

働き方についてお尋ねします。まずは今年１月はどのような働き方をしていたのかお話いただけますか？

Bさん

大手IT企業で契約社員として働いているのですが、１月はそれまでと変わりなく、週５日間通勤していました。一日５時間、週２５時間の契約で勤務は９時から午後１時まで。残業は繁忙期に時々あるくらいです。ほぼ外出もないデスクワークです。家は都下で職場は中央区なので通勤はドア・ツー・ドアで片道１時間半くらいです。

インタビュアー

４月７日からの緊急事態宣言が解除されるまでの間はどのような働き方でしたか？

Bさん

緊急事態宣言直前くらいから全面的に在宅ワークになりました。勤務先はIT企業なので、何年も前からリモート・ワークの制度はあったのですが、認められるのは正社員だけで、私のような契約社員とか派遣社員は対象外でした。出社しなければ勤務したとは認められなかったので、緊急事態宣言の前、３月後半とかは、出社すると正社員はいなくて非正規社員ばかり、という日が多かったです。派遣会社が交渉したのか、次に派遣社員が出社しなくなり、私たち契約社員も緊急事態宣言直前に在宅ワークを認められました。実は社員で感染者が出たらしくて、それもあって認められたのかなと思います。

もともとデスクワークなので、やっている仕事内容は変わりません。社内コミュニケーションもメールやチャットが主だったので、場所が変わっただけ、通勤がない分楽かなと思います。

【同居者について】（いる場合）

3.同居者（複数いる場合はそれぞれ）の働き方、通学などの変化はどのようなものでしたか。

インタビュアー

同居している方はいらっしゃいますか？いらっしゃる場合、同居者の働き方、通学などの変化はどのようなものでしたか？

Bさん

夫と子どもふたりです。娘は高校に入ったばかり、息子は中学２年生です。

子ども達の学校はどちらも早々に休校となりました。ただオンラインなどで授業があるわけでもなく、学校から課題が来て、それを自習するだけ。娘は入学したてですし、自習だけしているというのも心配で。学校によっては早くからオンライン授業をしていたりするようでしたので、早く対応して欲しいと思っていました。

緊急事態宣言が出てからは、夫も在宅ワークになりました。広い家ではないので、リビングで夫が、ダイニングで私が仕事することが多いのですが、私夫と私の会議の時間が重なるとお互いの声が会議相手まで聞こえてしまって。私の部署は機密事項も多いので、会議のたびに寝室とか色々場所を考えて神経を使いました。ダイニングにいると子ども達も何かと部屋から出てきますし。なかなか集中しないので、仕事のペースは遅くなっていたと思います。

生活の変化について

4.自分と同居者の生活の変化はどのようなものでしたか。睡眠、家事、趣味、運動、自由時間、家族関係など思いつく側面についてお答えください。

インタビュアー

ご自分とご家族の生活の変化はどのようなものでしたか？

Bさん

年がら年中顔を合わせているような感じです。あと、毎日三食家族分の食事を用意するようになって。こんなに連日、毎食毎食一緒に食べたことってなかったような気がします。大変と言えば大変ですが、近所のレストランのテイクアウトを利用したり、レトルトや冷凍食品も使えますし、普段も子ども達はお弁当なのであんまり変わらないかもしれません。時々子ども達が作ってくれたりします。子ども達も暇なのかもしれませんね。家族でこんなに一緒にいられる機会も、もしかしたらもうこの先ないかもしれないので、逆に大事にしようかなと思ったりもしていました。

つらかったこと

5.緊急事態宣言およびそれに先立つ、外出自粛や休校措置などの感染防止対策の開始後の生活でつらかったことをお答えください。

インタビュアー

緊急事態宣言や外出自粛や休校措置などの感染防止対策の開始後の生活でつらかったことをお答えください。

Bさん

実は他県にいる弟の家族で感染した者がいまして、奥さんなんですが、それが心配で。他の家族は陰性で、弟の奥さんも幸い軽症だったんですが、それでも一ヶ月くらいは家に帰れなくて。手助けに行くこともできませんし、両親も心配するし、軽症とか陰性とか言われても、まだよくわからないウイルスなわけで、どうなってしまうんだろうと。それが一番つらかたです。

それに比べれば他のことはまあ、あまり・・近所のスーパーとかで本当にトイレットぺーパーがなくなったり、ホットケーキミックスが品切れになったり、遊びにいかれないとか、なんというか、単純に不便だな、つまらないな、というくらいで。健康さえ守れていれば、あとは我慢できるようことだなと思いました。

よかったこと

6.緊急事態宣言およびそれに先立つ、外出自粛や休校措置などの感染防止対策の開始後の生活でよかったことをお答えください。

インタビュアー

緊急事態宣言や外出自粛や休校措置などの感染防止対策の開始後の生活で良かったことをお答えください。

Bさん

契約社員でも在宅勤務が認められたことですね。台風の日とか、電車が動かないとか、何があっても収入のためには会社までたどり着かなければ、というのではなく、場合によっては在宅で、という選択肢ができて良かったと思っています。正社員以外リモートワークできないというのは、労務管理とか色々な事情があってのことで、正社員以外のために何か変えたり融通したりするだけのモティベーションが会社になかったわけですよね。このくらい強烈なことがないと会社は変わらないというか・・特にうちの会社は規模も大きいし、割と古い体質も残っているので、正直諦めてましたから。新型コロナなんてなかった方がもちろん良いですけど、不幸中の幸いというか、今後何かあってもちょっとだけ安心です。

7.全体として、緊急事態宣言やそれ以前の感染拡大防止のための社会の変化は自分にどのような影響を及ぼしましたか。

インタビュアー

全体として、緊急事態宣言やそれ以前の感染拡大防止のための社会の変化は自分にどのような影響を及ぼしましたか。

Bさん

でかけなくなったかな。暑いですしマスクが苦手で余計出不精になってます。

今の状態が続くのか分かりませんし、コロナ前、後、みたいにあまり意識しすぎないようにしています。その時その時でできるようにやっていくしかないと思っているので。